日本産科婦人科学会フォーラム
平成26年6月21日

交代勤務制
～ワークライフバランスの観点から～

日本赤十字社医療センター
第二産婦人科　部長
木戸道子

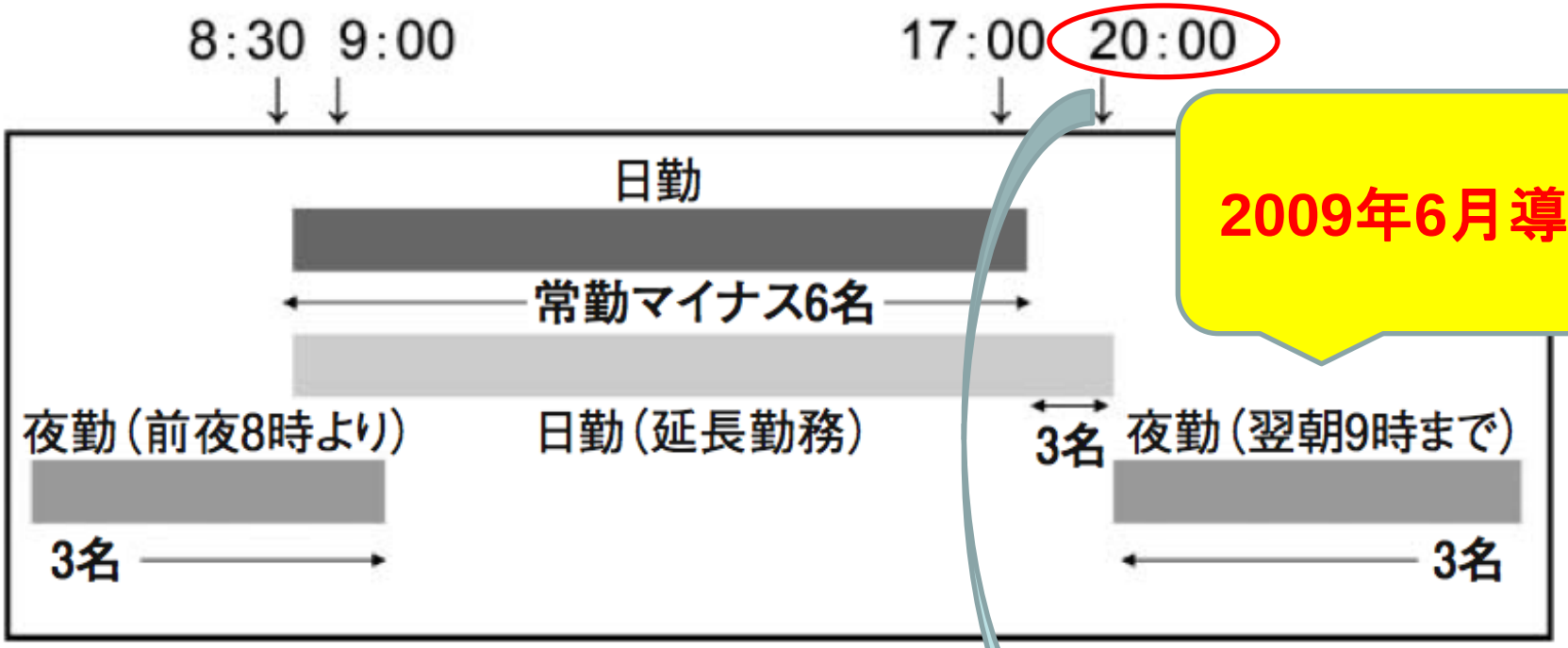
日本赤十字社医療センター
Japanese Red Cross Medical Center

施設の概要

- 総合周産期母子医療センター
- 母体救命対応周産期センター
- WHO/ユニセフ認定 Baby Friendly Hospital
- 2013年診療実績：分娩3138件（高年49%）
  帝王切開術646件
  母体救命搬送24件
  外来患者：産科16
  120人/日
- 産婦人科医師数：常勤医25名　非常勤医3名
  初期研修医6名

スタッフ数も業務量も多い
周産期「最後の砦」として
救急・母体搬送・救命搬送に対応

平日昼と夜間休日では対応能力に
大きな差あり



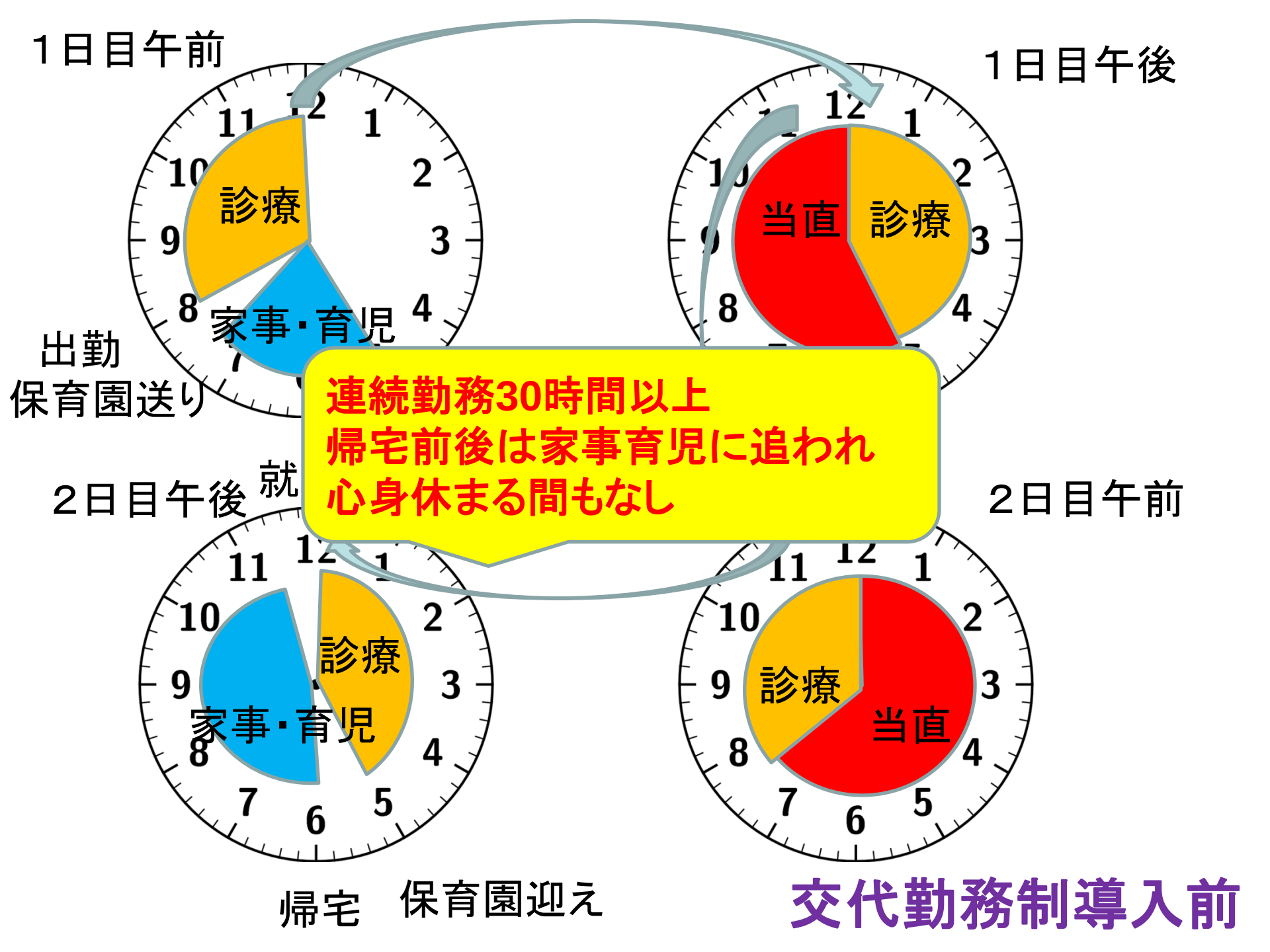
2009年6月導入

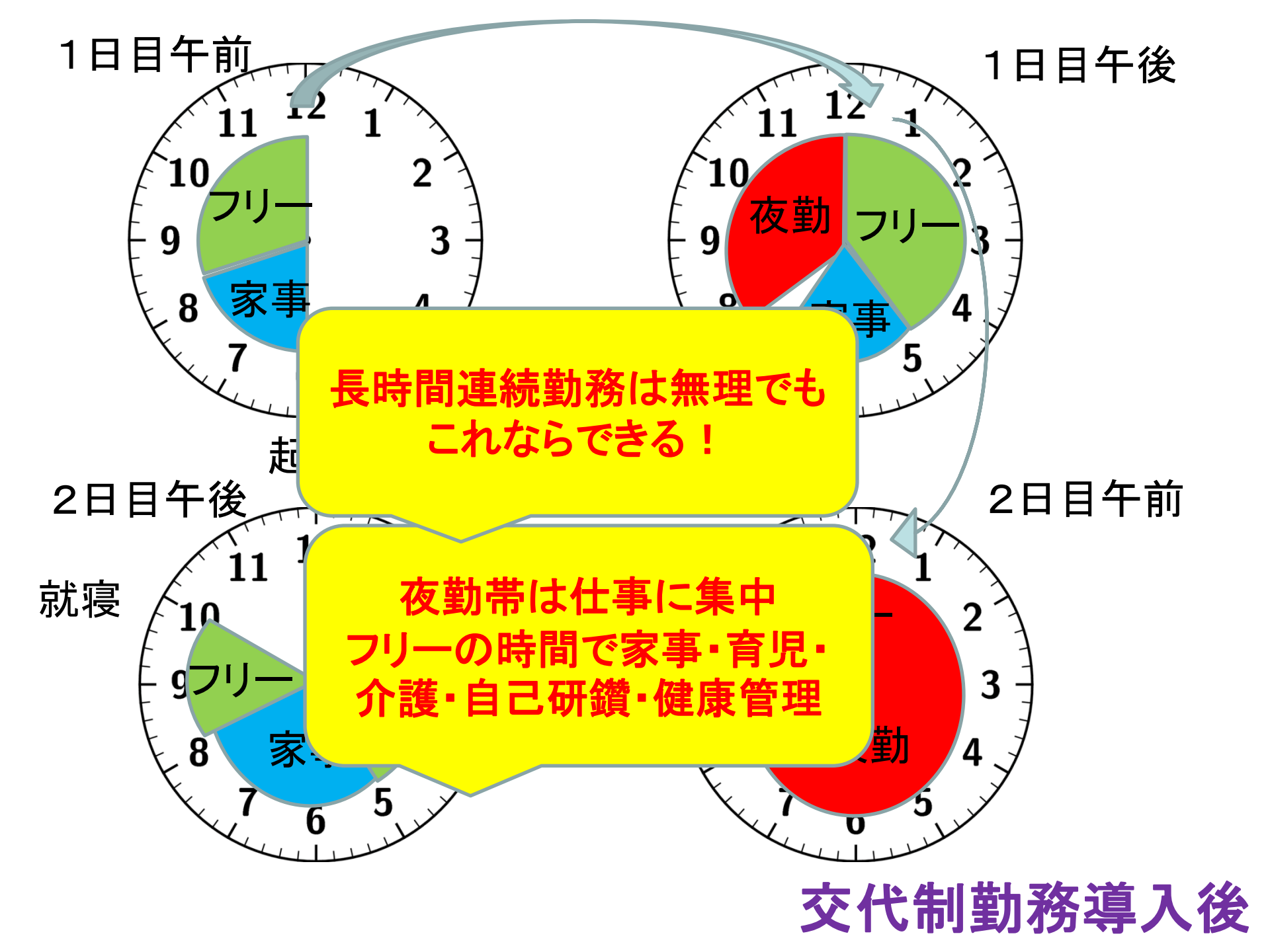
図２　交代勤務制の例（日本赤十字社医療センター産婦人科）

杉本充弘前副院長
周産母子小児センター顧問

家族と夕食をとってから
出勤できるように

木戸道子:「医師のワークライフバランス改善．女性医師支援、勤務体制の工夫」（労働の科学　vol 67, No10, 606-609, 2012）


1日目午前
診療
家事・育児
出勤
保育園送り
1日目午後
当直
診療
連続勤務30時間以上
帰宅前後は家事育児に追われ
心身休まる間もなし
就
2日目午後
診療
家事・育児
帰宅
保育園迎え
2日目午前
診療
当直
交代勤務制導入前


1日目午前
フリー
家事
1日目午後
夜勤
フリー
家事
長時間連続勤務は無理でも
これならできる！
2日目午後
就寝
フリー
2日目午前
夜勤帯は仕事に集中
フリーの時間で家事・育児・
介護・自己研鑽・健康管理
交代制勤務導入後

木曜　金曜　土曜　日曜　月曜

夜勤　遠距離介護や老親の世話　夜勤

曜日を選べば
特別な休暇をとらなくても
まとまったオフが取得可

介護による離職を防止

勤務時間の短縮が医療安全に与える影響について

●勤務時間の医療安全に与える影響を分析した7つの先行研究をレビューした論文※によると、4つの研究は勤務時間を短縮するという介入が医療安全に関する指標に良い影響を与え、残りの3つの研究では有意な関連性はないが、患者の予後に悪影響は与えていないという報告であった。

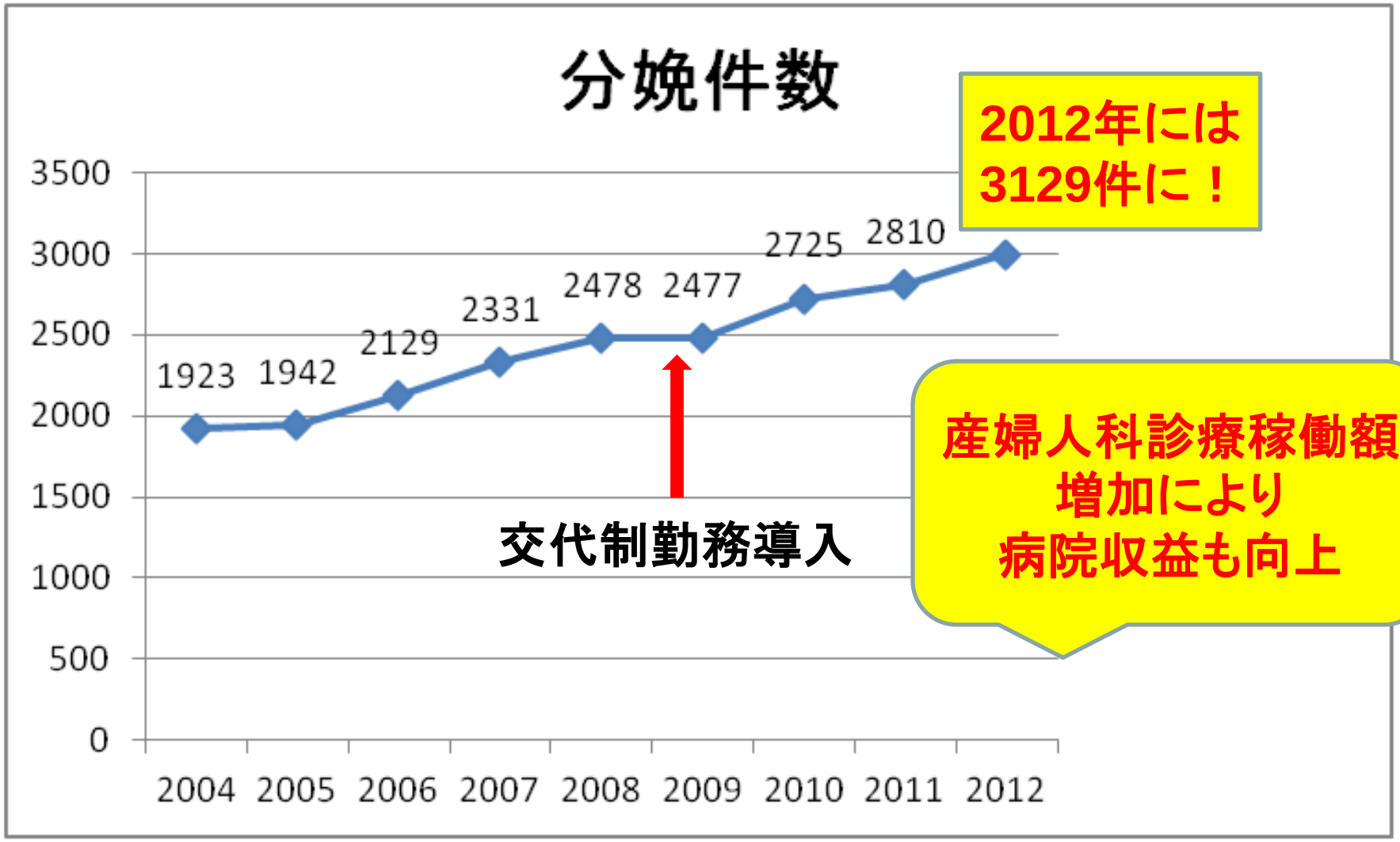
※ Ehara A. Are long physician working hours harmful to patient safety?.Pediatr Int .2008;50:175-178

	研究	研究デザインと対象	対照	介入	結果
介入の効果があったと報告	Landrigan et al.[1]	Prospective, ra… study 研修医			重大な医療事故の発生率を35.9％削減 …] 対 [介入：100.1]（患者千人・1日当たり）
	Bailit and Blanchard[2]	Retrospective c… study Metro Health Medical Center			…限により、出産後出血（[対照：2.0％]対[介入 …生児蘇生（[対照：30.1％]対[介入：26.3％]）の件数 …有意に減少
	Baldwin et al.[3]	Descriptive stu… 卒後1～2年の…			…務するレジデントは、週80時間未満勤務するレジデ …大な事故や障害の経験が1.58倍上昇する。
	Mann and Danz[4]	Prospective cohort study 研修医の放射線科プログラム	…ジデントを…	…る流動的な補助レジデントを配置	誤診率（レジデントと主治医の診断の不一致） …] 対 [補助あり：1.0/1シフト]
介入の効果が認められなかったと報告	Rogers et al.[5]	Retrospecti… study Fletcher Al… Care/Unive… Vermont			…Graduate Medical Education …の週80時間の制限の前後で、合併 …生に統計学的変化はなかった。
	Davydov et al.[6]	Prospective			
	Lee et al.[7]	Prospective… controlled t…			…や誤診の数に有意な差はなかった。

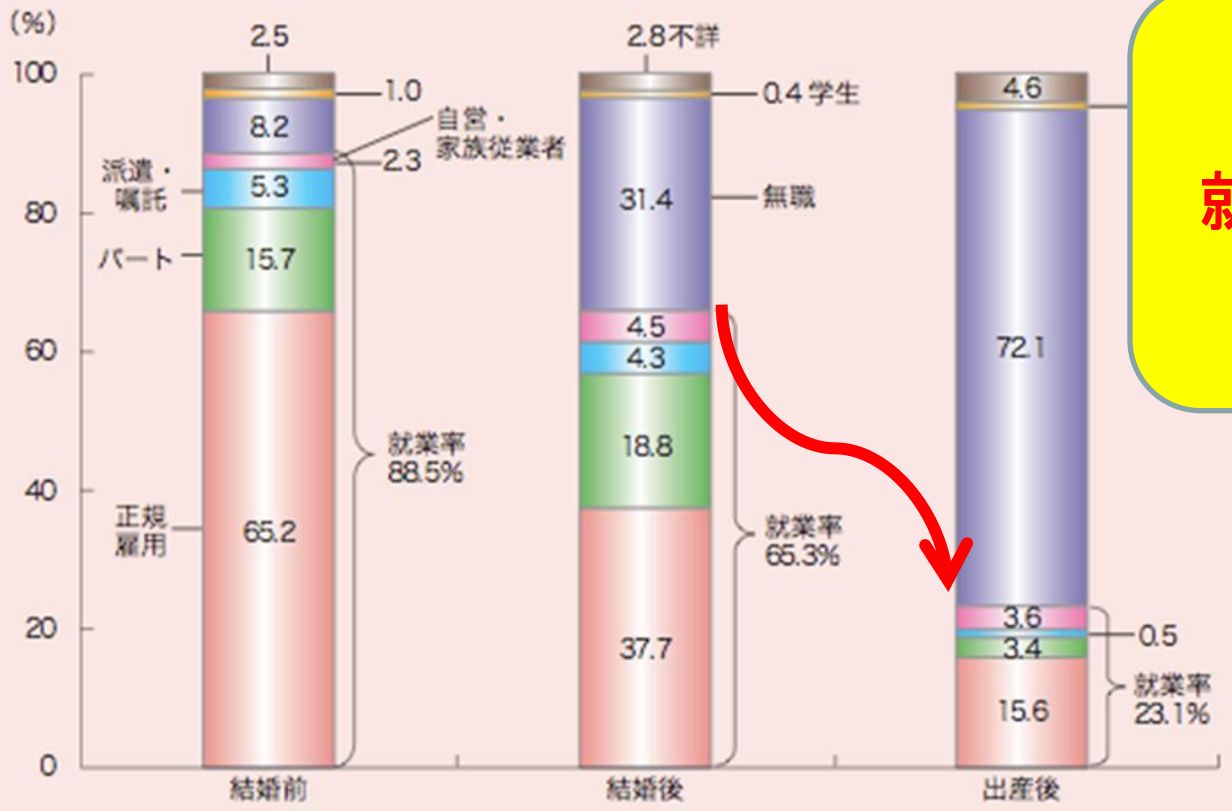
疲労による医療事故防止
救急受け入れ率向上

接遇改善
「疲れた顔で診療している」など
クレームの投書も減少
患者さんに笑顔で！

1. Landrigan CP, Rothschild JM, Cronin JW, e…
2. Balit JL, Blanchard MH. The effect of house…
3. Baldwin DC, Daugherty SR, Tsai R, et al. A n…
4. Mann FA, Danz PL. The night stalker effect: Qua…
5. Rogers F, Shackford S, Daniel S, et al. Workload redistribution: A new ap… workweek. J Trauma.2005; 58: 911-916.
6. Davydov L, Caliendo G, Mehl B, et al. Investigation of correlation between hous… work hours and prescribing errors. Am J Health Syst Pharm.2004; 61: 1130-1133.
7. Lee DTY, Chan SWW, Kwok SPY. Introduction of night call system for surgical trainees: a prospective self-controlled trial. Med Educ.2003; 37: 495-499.


分娩件数
3500
3000
2500
2000
1500
1000
500
0
1923
1942
2129
2331
2478
2477
2725
2810
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
交代制勤務導入
2012年には
3129件に！
産婦人科診療稼働額
増加により
病院収益も向上

女性の就業形態の推移



(備考) 1. 国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」(2002年)により作成。
2. 結婚持続期間5年以上、結婚5年未満に第一子を出生した初婚同士夫婦の妻4,647人のうち、結婚年次が1995年～99年の者を対象としている。
3. 「結婚前」と「結婚後」、「出産後」の三つの段階における女性の就業形態を表している。

妊娠出産により
就業率の大幅な低下
医師も例外でない

家事育児のアウトソーシングは
日本ではまだ進んでいない
保育施設の待機児増加は
社会問題に

保育園が対応していない
当直帯・夜間休日の勤務の
やりくりが問題

小学校入学
学童保育、学校行事、受験
新たな壁が

当直明け朝のお弁当作りも
どうしよう？

経済・雇用

わが子か生徒か、それが問題だ

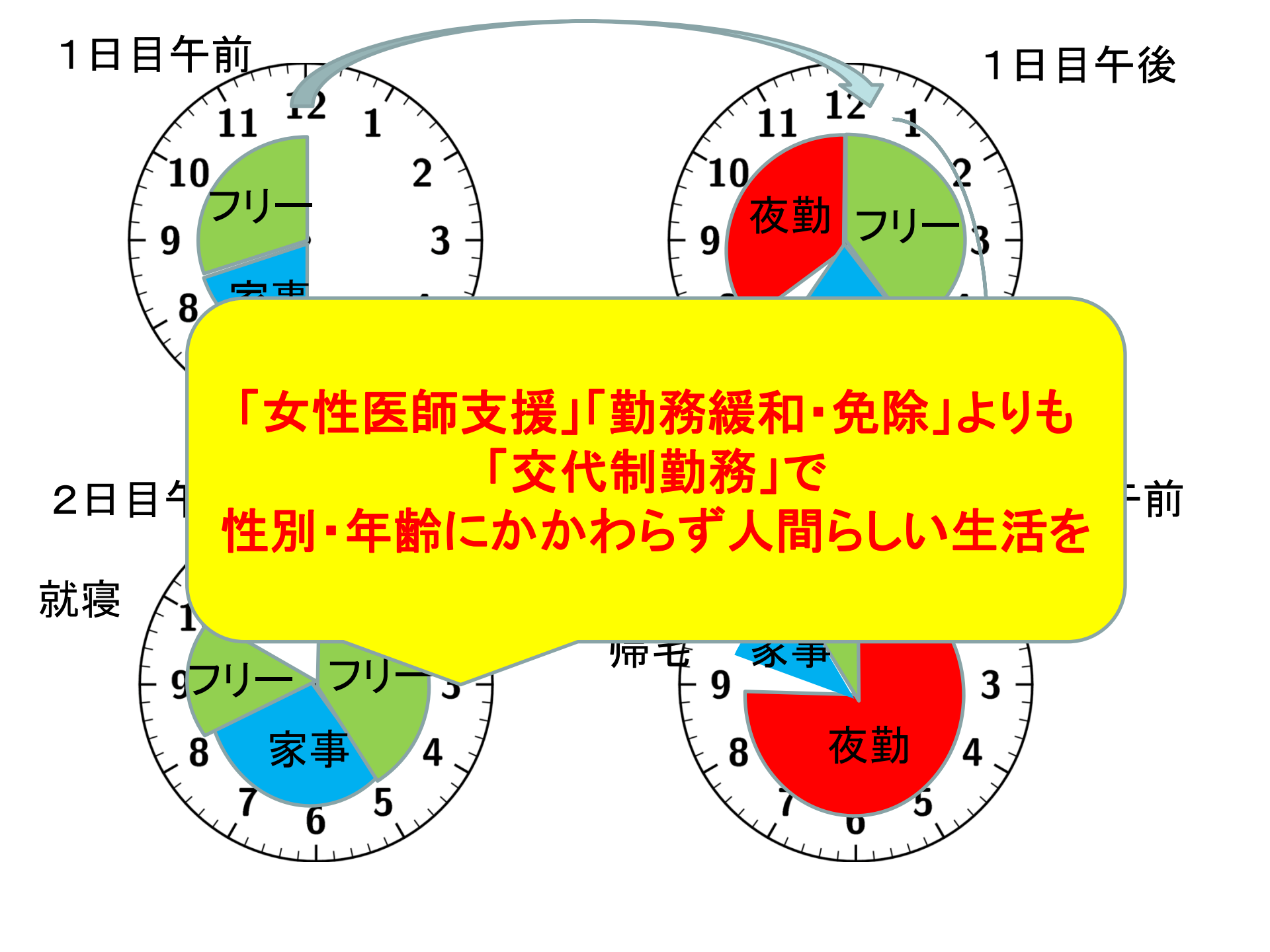
埼玉の県立高校入学式＝２０１０年（本記事とは関係ありません）

教師は生徒の入学式よりわが子の入学式に
のか――。埼玉県の県立高校で、新入生の担
れも自分の子どもの入学式に出席するために
式を欠席したことが大きな波紋を広げた。４
談し、有給休暇が認められていたが、インタ
では議論が沸騰。「教師としての自覚と責任
あがる一方、「教師にもワークライフバラン
」という擁護論も。ことは働くことや家族を
親にもかかわる。

学童期以降も
仕事と家庭の両立の悩みは多い

「長時間勤務・時間外は無理」
当直「免除してもらっている」
職場に居づらい環境

学会託児所設置も増えたが
家庭と仕事だけで手いっぱい
学会・研究など学術活動や
医師会・委員会等の管理業務はつい後回しに
→意思決定の場に現場の声が届かず改善につながらない


1日目午前
1日目午後
フリー
夜勤
フリー
2日目午
午前
就寝
帰宅
家事
フリー
フリー
家事
夜勤
「女性医師支援」「勤務緩和・免除」よりも
「交代制勤務」で
性別・年齢にかかわらず人間らしい生活を

日付	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
副センター長　60代　男性	・	・	・	S1	・	休	管	・	・	・	・	・	休	休	・	・	・	S1	・	管	休	・
部長　50代　男性	・	・	S1	・	・	休	休	S1	・	・	・	・	休	休	・	夜1	明	夏休	夏休	休	休	夏休
部長　50代　女性	明	・	・	・	・	夜1	明	・	・	S1	・	・	休	休	S1	・	・	・	・	夜1	明	・
部長　50代　女性	・	・	・	・	S1	休	休	・	・	・	・	・	休	S1	・	・	・	・	・	休	休	・
副部長　40代　男性	・	夜1	明	・	・	休	S1	・	・	・	S1	・	休	休	・	・	S1	・	・	S1	休	・
副部長　40代　女性																					休	・
副部長　40代　女																						・
専門医　40代　女																						S1
専門医　40代　女																						・
専門医　40代　女																						明
専門医　30代　男																						夜1
専門医　50代　女																						・
専門医　30代　女																						S2
専門医　30代　女																						・
専門医　30代　女																						夜2
専門医　30代　女																						・
卒後6年　30代　女																						・
卒後6年　30代　女																						・
専攻医　20代　女																						・
専攻医　30代　女																					2	明
専攻医　20代　男性																					休	・
専攻医　20代　男性	夜3	明	・					明	・	・	・	・	休	休	・	夜3	明	・	S3	休	休	夜3
専攻医　30代　女性	・	S3	夜3	明			S3	・	・	S3	夜3	明	休	休	夜3	明	・	・	・	S3	休	・
専攻医　20代　男性	・	・	S3	夜3	明	休	休	S3	夜3	明	・	・	休	S3	・	S3	・	夜3	明	休	夜3	明
専攻医　20代　男性	明	・	・	・	・	S3	休	・	S3	夜3	明	・	休	休	S3	・	夜3	明	・	夜3	明	・
初期研修医　30代　男性	―	―	―	―	―	休	休	―	―	―	―	―	夜3	明	―	―	―	―	―	休	休	―
初期研修医　20代　男性	―	―	―	―	―	休	休	―	―	―	―	―	S3	休	―	―	―	―	―	休	S3	―
初期研修医　20代　女性	S3	・	・	・	夜3	明	休	夜3	明	・	・	S3	休	夜3	明	・	S3	・	・	休	休	S3

産婦人科医全体の3分の2が女性
管理職の3分の2が女性
男性も女性も同様に夜勤や長日勤を担当
↓
「女性の活用」
「共同参画」を実現

＜交代制勤務の課題＞

- 勤務表や外来担当表の作成が必要
- 収入面：当直料がなくなり収入が減少することも
  夜間休日の勤務を評価するシステムが必要
- 診療面：外来担当曜日が固定しにくい
- 患者の理解：日中に主治医が不在
  チーム診療の促進　診療の質を一定に
  診療ガイドラインの活用
- 研修面：研修医は経験を増やしたい要望あり
- 一定の業務量と人数が必要
  すべての施設・地方で可能なわけではない

勤務時間・当直回数と待遇

	勤務時間（時間）*	日勤・夜勤等交代制勤務施設数	1カ月間の平均当直回数 産婦	救急	小児科	内科	外科	当直睡眠時間（時間）	当直翌日の勤務緩和実施施設（%）
施設運営母体による分類									
大学	51.4	3	5.2	4.8	3.9	2.7	2.8	4.6	21 (20.2)
国立	52.5	0	5.0	3.7	4.9	2.4	2.6	4.5	3 (10.3)
都道府県立	49.2	1	5.4	4.3	4.2	2.3	2.9	4.6	11 (19.0)
市町村立	49.2	6	5.4	3.7	3.9	3.1	3.2	5.0	53 (31.0)
厚生連	45.6	2	5.4	5.5	4.1	2.9	3.2	5.3	8 (18.6)
済生会	50.5	1							6 (26.1)
社保	49.3	0							5 (33.3)
日赤	49.5	5							19 (40.4)
私立	44.8	32							48 (24.5)
その他	47.5	13							19 (17.4)
周産期母子医療センターによる分類									
総合	53.0	5							30 (37.0)
地域	50.1	12							63 (28.0)
一般	46.4	46							100 (20.4)
全施設	48.2	63							193 (24.3)
2012年　全施設	48.8	48							172 (21.7)
2011年　全施設	49.5	46							163 (21.6)
2010年　全施設	49.5	48							156 (20.3)
2009年　全施設	51.6	47	6.0			3.2	3.0	4.8	156 (19.0)
2008年　全施設	52.1	NA	5.9	4.5	4.2	3.7	3.3	4.7	142 (16.7)

*当直を除く1週間の平均勤務時間
（%）は全施設における頻度
NA: not applicable.

交代勤務制度がある
63施設
当直翌日の勤務緩和実施
193施設
実際に運用できているのは
さほど多くない

産婦人科勤務医の待遇改善と女性医師の就労環境に関する
アンケート調査（2013年）（日本産婦人科医会）
（分娩取り扱い施設　795施設から回答）

医療機関の勤務環境改善へ各方面から取り組みがようやく進みつつある

妊産婦・女性の健康をサポートする産婦人科医がワークライフバランス改善に努め情報発信していく意義は大きい

ご清聴有り難うございました

（イラストは日本産婦人科医会「女性医師支援情報サイト」による）